

堆肥活用
の効果

作物にあわせ、堆肥を独自にブレンドすることで収量アップを実現！

- ・化学肥料使用量の減少
- ・土壌改良効果

堆肥活
用前の
課題

- ・施設イチゴの栽培をしていた頃から土づくりにこだわっていた。
- ・その後、キャベツ栽培に切り替えたが、圃場が粘土質だったため土壌改良をする必要があった。

機械等

- ・ストックヤード（スイッチ事業で改修）
- ・マニアスプレッター、トラクター等

農業者のプロフィール

農業者名（法人名・組織名）
猿田志岐農産有限会社

作物名
水稻・WCS：10ha
麦：10ha

栽培面積
約10ha

所在地
吉野ヶ里町

事業で整備したストックヤード



スイッチ事業を活用し既存のストックヤードの屋根と壁を改修。

壁の高さを2.5mに高くしたことで、多くの堆肥がストック可能になった。また、屋根も改修したので雨漏りも無くなり、堆肥の品質も安定した。

堆肥散布



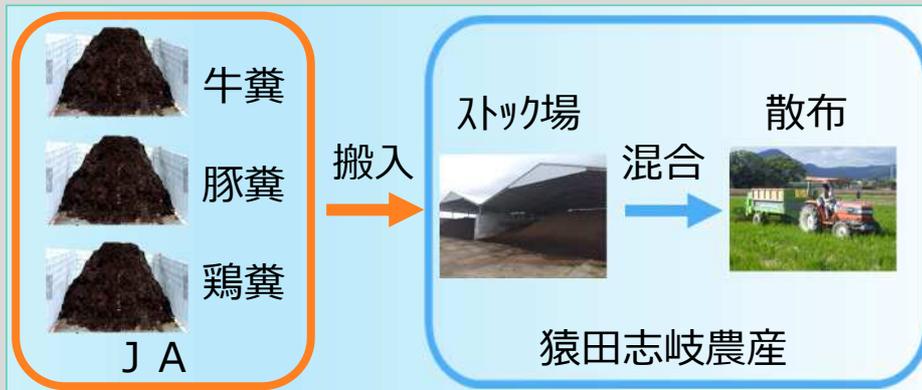
牛糞1：豚糞1：鶏糞2にブレンドした堆肥をマニアスプレッターで散布。作物に良い影響を与えている。

周辺への配慮として散布後すぐに漉き込んでいる。

耕畜連携の体制図

耕畜連携に至った経緯

粘土質の土壌だったため、畜産堆肥を投入したら改善されたことから利用するようになった



使用量：3t/10a

運搬方法：

J Aが随時大型トラックで搬入

散布方法：

猿田志岐農産がマニアスプレッターで散布

経費の試算

肥料はほぼ堆肥のみ

堆肥ニーズの年間スケジュール



活用した耕種農家の感想



- ・牛豚鶏の堆肥を全て扱っているJ Aさが天山ファームの堆肥を利用している。
- ・ストックヤードを整備し、各堆肥をブレンドして使うことでよりよい堆肥ができ、R5年は飼料米（玄米）で850kg/10aの収穫があった。
- ・牛糞1：豚糞1：鶏糞2の割合でブレンドしている。大きく育つので、特に加工用野菜を作っている人にはお勧め。

今後の目標・方向

- ・栽培面積を増やしたい
- ・露地野菜（加工用）を作りたい